PAN-WALL工法〈切土補強土壁工法〉

PAN（Panel And Nail）Wall工法は急勾配斜面安定工法の１つである切土補強土工法の理論に基づく工法です。補強材には従来から使用されている鋼棒を用いますが、表面保護工にはモルタル吹付けやコンクリート吹付けの代わりにコンクリート板を用い、現場作業量の低減と意匠デザインの多様化に対応します。

●特長

1.構造物を上から下へ仕上げながら切り下がる逆巻き施工が基本で、余分な切土や埋め戻し作業が発生せず、土工事量が低減できます。

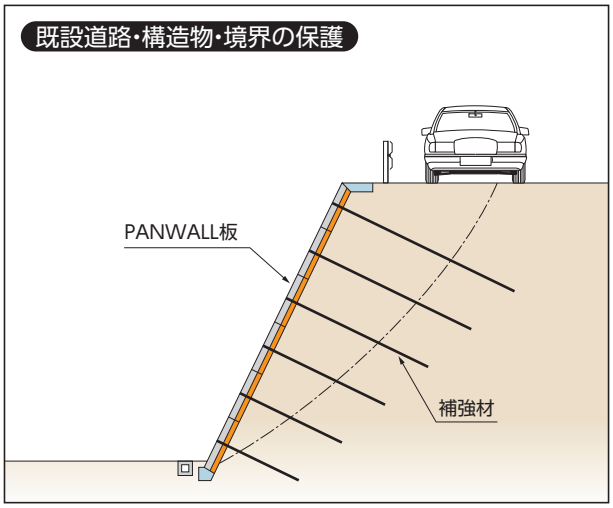
2.掘削断面が最小限で済み、森林、緑地等の周辺環境への影響を少なくできます。

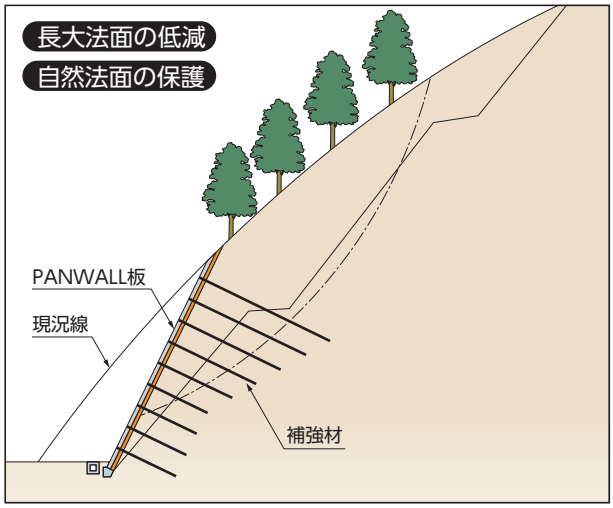
3.表面保護工のプレキャスト化により、工期短縮と省力化が可能となります。

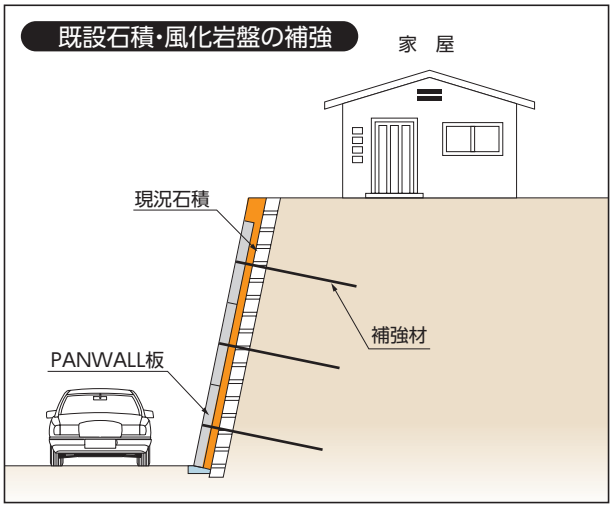
4.コンクリート板は工場生産のため品質に優れ、表面の意匠も様々に対応ができます。

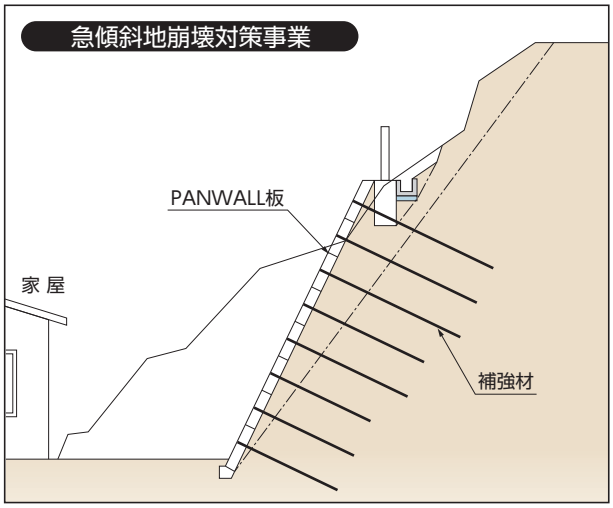
5.高所作業がほとんど発生せず、きわめて安全性の高い工法です。

主な用途

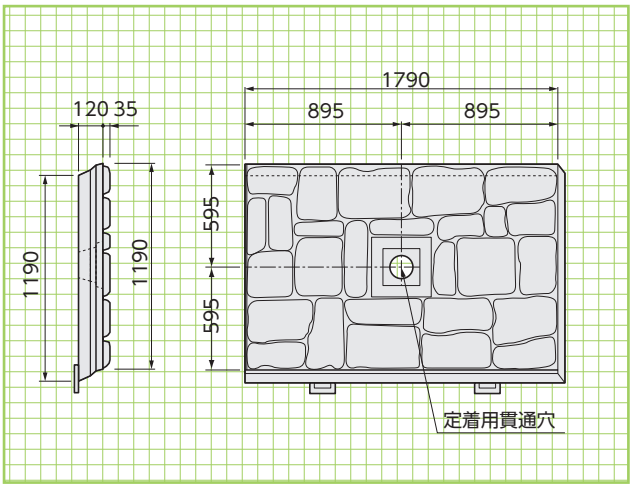




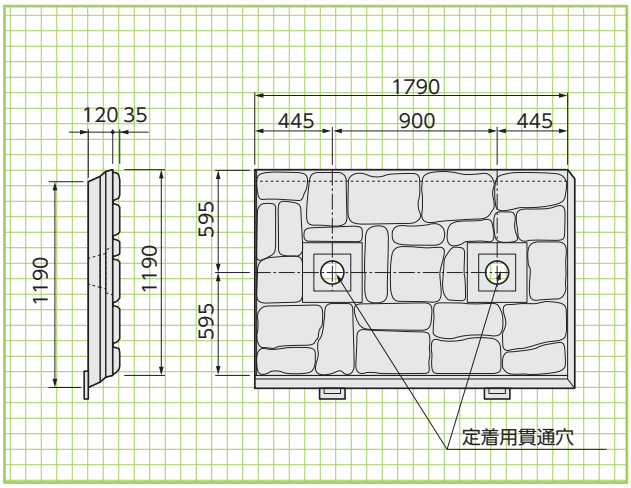


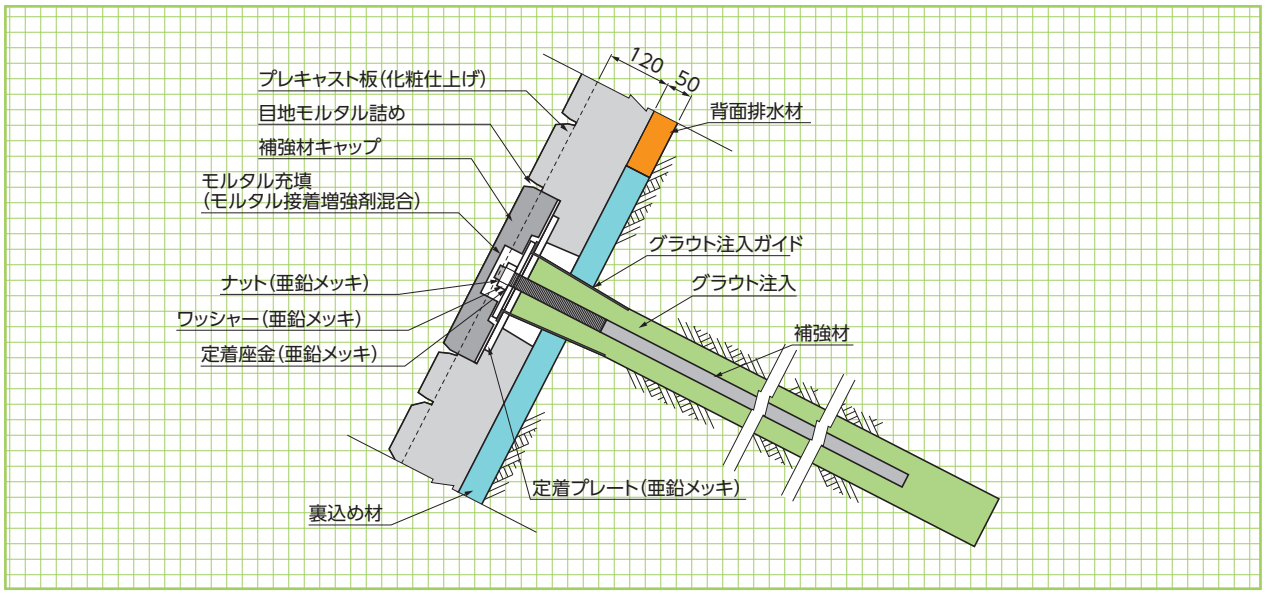


Sタイプ（1穴）

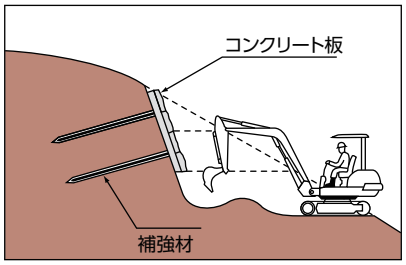


Dタイプ（2穴）



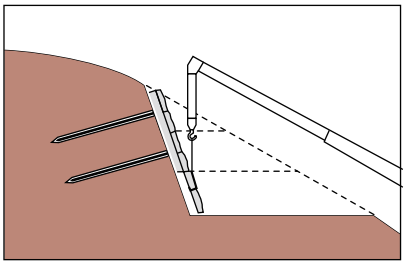


1. 掘削・法面整形



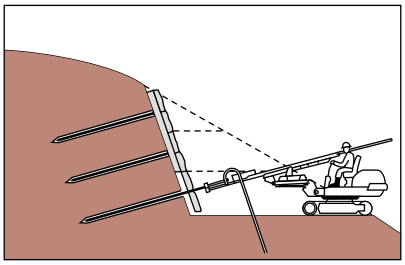
バックホー0.4m³クラスにて、パネル1枚分（約1200mm～1300mm）掘削します。その後に透水材と裏込注入パイプをセットします。

2. コンクリート板据付



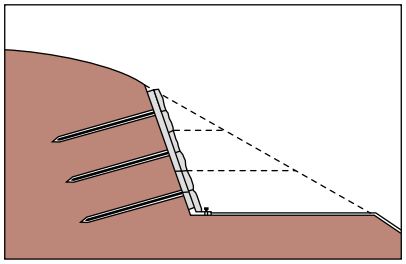
専用の吊り具を使用して、所定の位置にコンクリート板をセットします。

3. 補強材打設・グラウト



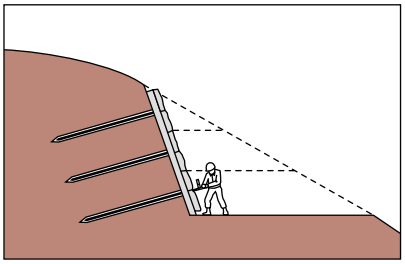
ボーリングマシン等を使用して削孔し、補強材を挿入した後、グラウト注入を行います。

4. 裏込注入



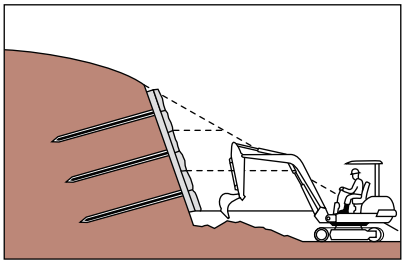
コンクリート板と地山との隙間に、セットしておいた注入パイプを介して、モルタルを注入します。

5. 補強材頭部定着



トルクレンチにより補強材頭部を定着し、その後にキャップを装着します。

6. 次段掘削



次段以降は1～5の繰り返し作業になり、最終段施工完了後に基礎工を施工します。